児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：令和　2年10月　12日

事業所名：放課後等デイサービス　てとて

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	十分な訓練指導室の確保はできている。	保護者の評価は十分に確保できている。　100%	十分なスペースは確保できているが活用方法等今後の中で検討しながら改善していきたい
	2	職員の適切な配置	利用者の増加に合わせ増員してきた。	適切な配置が出来ている。100%	配置はできているがパート職員が未経験のため支援者としての指導を行いながら取り組んでいる。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	玄関に段差があるためバリアフリーではないが部屋と部屋の段差などは極力なくしている。	できている。70% どちらともいえない20% 未確認10%	賃貸物件でありできないことも多いが今後改善できるとことは取り組んでいきたい。
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	コロナ禍の現状もあり普段にも増して清掃等には気を付けている。	子どもの活動に合わせた生活空間の確保が出来ている。　100%	活動内容により部屋の活用を変えながら取り組んでいるが全員が満足できているかの見極めをはかりながら取り組んでいきたい。
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）への職員の積極的な参画	始業時の連絡引継ぎ時に会議を持ち協議し取り組んでいる。		今後は職員全員がそろう時間設定を行いながら共通認識が持てるよう取り組みたい。
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	現状、初年度であり体制の確立を行う中で外部評価を検討したい。		日々の中で改善できるよう職員間の疎通を十分に行い実行していきたい。
	3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	具体的に研修が参加できる状況にあれば積極的に参加できればと思う。		強度行動障害の研修など参加できるようにしたい。
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	児童発達支援管理責任者により支援計画を立てているが本人の状況把握と家族との意向を調整しながら取り組んでいる。	放課後児童クラブとの交流ができておらず今後の課題である。職員へ迎えの時に利用者の状況を聞いている。 児童館については夏休みの取り組みの中で3回ほど行くことが出来た。 保護者の意見は未確認であるとの評価であった。今後は広報伝達していきたい。	4月からの稼働により計画を順次立てているが状況把握を行い見極めを行っている。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	曜日により支援課題の変化があり合わせた個別活動、集団活動を取り組んでいる。		集団活動になじめないこどもへの支援について協議しながら取り組んでいきたい。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	子どもの支援に必要な項目は設定し目標は立てているが具体的な支援内容、課題の設定が難しい場合がある。		子どもの満足度について保護者に計画書の説明時に話して利用を控えるなどがあり難しさを感じている。

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供（続き）	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	日々の取り組みと支援計画の一致が十分ではないときもあるが意識して取り組みたい。	保護者の満足度　95%である。	本人、保護者、学校、放課後等デイサービス、相談員との課題設定が難しい場面もあるので調整しながら取り組みたい。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	職員会議にて月ごとの大まかな予定を立て、その週の担当者が責任を持ち実施している。	保護者の満足度　95%である。	初年度ということもあり経験者が中心となり取り組んだ。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	初年度のため状況に応じ取り組みを行ってきたが今後は計画に沿って取り組みたい。		コロナ禍で外出等の活動が十分に取り組めない場合があり室内での取り組みが多くあった。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	職員の担当を交替するなど始業時に日々の中で課題と取り組みを考え実施している。		利用者の人数等状況に合わせ取り組みの内容に変化をつけている。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	始業時に日々の中で課題と取り組みを話しして考え実施している。		送迎があるため、終業後に話ができないので随時要点を伝えるなど行い、翌日に確認するなどしている。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	日々の中で気づいたことはその時に伝えるようにし翌日の始業時に共有していく。		大事なことは記録に残し日々の気づきの中で伝えていく、重要なことは始業時に確認し共通理解を深める。連絡帳の確認。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	保護者には日々の中で連絡帳のやり取りを密に行い状況を共有している。大事なことは送迎時に確認を取り直接話をする。　検証改善については継続実施している。		日日の事象については連絡帳にて連絡確認を行い記録として残している。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	4月からの開業のため初回の放課後等デイサービス計画を立てた状況のため10月から順次モニタリングを行い見直しを行う。		二回目の放課後等デイサービス計画となるためより本人の課題と支援についての判断ができるようになるので深めた計画を立てたい。

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	相談事業所の呼びかけにより担当者及び責任者が参加しサービス担当者会議を実施しています。		サービス担当者会議にて課題を明確にする中で取り組みを進めるが保護者の思いとの乖離をどう近づけるかの課題がある。
	2	**（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）** 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	現状医療的ケアが必要な子供はいないが、てんかん発作や転倒やけがなどいつ起きるかわからない状況があるため細心の目配りをしながら取り組んでいる。		
	3	**（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）** 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	現状として協力医療機関はあるが連絡体制の整備までは至っていない。		
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校（小学部）等との間での支援内容等の十分な情報共有	保護者及び計画相談事業所からの情報のみで直接保育所等の様子など情報を得ることはない状況で、小学校からの情報は変化があれば保護者からの情報になっています。		今後の中では必要があれば情報を得ていきたいと思いますが、個人情報のこともありまずは保護者の確認了解を得たうえで取り組みます。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	現状として小学校低学年のため情報提供には至っていません。		現状として小学校低学年のため情報提供には至っていません。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	関係機関との連携や研修については機会があれば取り組みたいと思います。		研修は積極的に取り組みたい。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	現状として事業運営の安定を目指す中で他施設との交流を図りたいと思います。	未確認との評価　100%	児童館との交流は継続し少しずつでも取り組みを広げていきたい。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	コロナ禍の状況が落ち着く中で計画的に取り組みたいと思います。	未定　100%	行事への参加地域住民との交流の必要はあるが現状としては控えている。

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時の重要事項の説明にて確認。	了解済　100%	問い合わせにより対応。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	わかりやすい説明に心がけ理解を得ながら取り組んでいる。	了解済　95%	子どもの満足度について保護者に計画書の説明時に話している。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント･トレーニング等の支援の実施	現状は個別対応での取り組みになっている。他機関との連携を図りたい。	保護者に向けての研修を取り組みたい。	今後の中で研修を行い取り組んでいきたい。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	状況把握段階のため共通理解の徹底までは至っていないため今後の中で取り組みたい。	十分な説明が出来ている。100%	関係性ができる中で相談を受ける状況にある人もいるので今後広げていきたい。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	相談に至るまでの関係つくりを取り組み段階を経ていきたい。	必要性があるとの反応ではあるが計画的意識的な準備が必要。	経験がある支援者による対応を行い助言をしていく。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	今後運営が落ち着く中で取り組みたい。	どちらともいえない　100%	必要と思うので働きかけを行う中で具体化していきたい。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	契約時に説明しているが現状は上がっていない	対応できている　100%	送迎時など日常の中で気軽に話ができる関係性をつくる。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	送迎時など日常の中で気軽に話ができる関係性をつくる。	対応できている　100%	連絡帳にてやり取りを行い必要に応じ対面し話をする。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	連絡帳や案内状、ホームページにより情報発信を行い伝達している。	連絡帳の活用を生かせていきたい	連絡体制については個人情報のこともあり確認するなかで取り組みたい。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	契約時に説明を行い徹底している。	契約時に説明	重要事項説明において支援会議、放課後等デイサービス計画、相談事業所への取り扱いについては了解を得た。

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	マニュアルを作成しホームページに掲載している。職員、保護者には伝達し確認している。	ホームページに掲載し確認している。	現状確認段階のため内容の把握へ向けての研修を行う。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	利用者に防災に関するアニメを上映し繰り返しの意識付けを行っている。	防災訓練の実施を伝えている。	非常持ち出し袋の用意を行い避難所への避難訓練を行っていく。
	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	強度行動障害などがある利用者に対し制止や拘束など必要最低限に努め場面の切り替えなど支援方法の改善により取り組みを行う。		強度行動障害の研修に参加して具体的な支援に結び付けていく。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束がないよう心掛けており他害行為等、制止が必要な場合は必要最小限にとどめている。		強度行動障害の研修に参加して具体的な支援に結び付け放課後等デイサービス計画書に記載していく。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	おやつ等の嗜好を把握してる。		アレルギーなど保護者からの記録を確認し徹底するよう心掛けている。 日々の中で情報交換する中で適切な対応を取り組む。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	送迎時や災害に対する対応等徹底し研修している。		他害行為等状況を把握し未然に防ぐよう職員が介入して対応する。